

やまゆり ニュース

vol.40

2023

6

麻生市民交流館やまゆり



おもちゃと遊びの会



コロナ禍態勢からの復活を期して！！

「麻生市民交流館やまゆり」では、コロナ禍態勢からの復活を期して、昨年度後半から「やまゆり樂芸会」「アートフェスティやまゆり」「新春やまゆり寄せ」などの大型自主イベント再開に踏み切り、区民皆様の当館の利用促進につなげるべく力を尽くして参りました。

どのイベントに参加された市民活動団体も、来場された市民も、主催するサポートセンターのスタッフも、皆が「待っていました」という意気込みを感じさせる表情に溢れていて、イベント復活に取り組むことの大切さをひしひしと感じさせられました。

当館も新年度とともに、コロナ禍による制約を3年ぶりに撤廃し、区民の方々が以前同様飲食も含め楽しく利用できる準備を整えています。すでに幼いお子さんを対象にする集いも復活し元気な声が館内に戻ってきました。

当館スタッフ一同、区民の皆様の積極的なご利用を心からお待ちしています。

稼働状況の推移

年度	会議室利用回数		利用者数 (人数)	利用登録 (団体数)
	平日(夜間)	土日祝		
令和4	763(201)	415	12,086	707
令和3	629(104)	334	8,132	707
令和2	619(155)	145	5,316	749
令和1	1,223(408)	458	19,348	671
:				
平成20	874(118)	149	16,821	421

新型コロナの関係で利用が落ち込んでいますが、徐々に回復しつつあります。

やまゆりニュース vol.40 目次

4面 地域コミュニティ活動支援事業 お役立ち情報 介護保険制度について	O A Amusement 「お笑い」で日本を元気に	3面 支えあい 「あさお希望のシナリオ」を行なう あなたもわたしも地域の主役	S A 2面 麻生 「あさお希望のシナリオ」を行なう あなたもわたしも地域の主役
---	----------------------------------	---	---

「あさお希望のシナリオ」を実行する

いま、10年後を見据えた「あさお希望のシナリオ」作成が、着々とすすめられている。

2020年1月、麻生区において、区域レベル（行政区エリア）で様々な活動を行っている人や団体をつなぎ、地域レベル（小学校区エリアなど）の「まちのひろば」への支援などをを行う「ソーシャルデザインセンター」（SDC）の創出に向け、「誰もが何かしらのつながりを持ち、一人ひとりが輝いている、そして愛着を持つてるまちであるように」という願いの「あさお希望のシナリオプロジェクト」がスタートした。

2022年4月、同プロジェクトは任意団体「あさお希望のシナリオ実行委員会」として設立。

「活動の基本は、互助です」と語るのは同実行委員会会长の俵隆典さん。「麻生区役所と協定を結び、協働事業を行い、『市民自治』を目指していく」というスタンス。

具体的には、①コーディネート事例のヒアリング、②SD C-Cardプロジェクト、③WE B & SNS、④ハロープロジェクト（紙媒体の広報）、⑤まちのひろば祭り「I LOVEあさお」の5つのプロジェクトを実施。



集合写真。メンバーは47名（2023年4月現在）、年齢は10~80代と幅広い。実行委員会への入会は麻生区役所企画課に

写真提供:川崎市麻生区役所

「3人集まれば“まちのひろば”として、活動を互いに助け合い、つなぎ・広げていく」（俵さん）という考え方。それが形になった一つが、昨年9月23日（祝）、麻生区役所広場で行われた「まちのひろば祭りI LOVEあさお」。約3500人が来場、30~40代の子育て世代や大学生が多く参加した。

「麻生区は流入・流出人口が多く、30~40代の人たちがあまり定着されない。しかし、他の区と比べ保育園は充実しています。ここに住み続けられるという“受け皿”をつくるていかなくては」と俵さんは言う。

さまざまな活動を行う人々や団体をつなぐ場となる「ソーシャルデザインセンター」（SDC）は、24年度に開設予定。

「まちのひろば」は、SDCの創出に向け、「誰もが何かしらのつながりを持ち、一人ひとりが輝いている、そして愛着を持つてるまちであるように」といってほしいの「あさお希望のシナリオプロジェクト」がスタートした。

2022年4月、同プロジェクトは任意団体「あさお希望のシナリオ実行委員会」として設立。

「活動の基本は、互助です」と語るのは同実行委員会会长の俵隆典さん。「麻生区役所と協定を結び、協働事業を行い、『市民自治』を目指していく」というスタンス。

具体的には、①コーディネート事例のヒアリング、②SD C-Cardプロジェクト、③WE B & SNS、④ハロープロジェクト（紙媒体の広報）、⑤まちのひろば祭り「I LOVEあさお」の5つのプロジェクトを実施。



スマートフォン教室風景。近くにいる仲間が一人ひとり丁寧に教えてくれる

ステキなあさおをつくりたい ~あなたもわたしも地域の主役~

この活動の中心は、市の委託を受けた「生活支援コーディネーター」たち。「生活支援コーディネーター」とは平成27年に創設された職種で、住み慣れた街で暮らし続けるためのノウハウを地域の人々とともに考えながら、困りごとを“必要とする支援”につなげたり、さまざまな要望を吸い上げて対応していく活動を行っている。

「支えあい広場」という参加自由な共通の場を持つことで、知り合いが増えたり情報の共

ドアを開けると弾んだ声が耳に響く。ここは【みんなで支え合い広場】の会場。栗平駅近くの施設を借りて世代を超えた地域の居場所づくりを目指している。

この活動の中心は、市の委託を受けた「生活支援コーディネーター」たち。「生活支援コーディネーター」とは平成27年に創設された職種で、住み慣れた街で暮らし続けるためのノウハウを地域の人々とともに考えながら、困りごとを“必要とする支援”につなげたり、さまざまな要望を吸い上げて対応していく活動を行っている。

「支えあい広場」という参加自由な共通の場を持つことで、知り合いが増えたり情報の共

有が生まれたりと問題解決の選択肢も増えた。10年後20年後を見据えた優しい街づくりを目指している。

今この会が力を注いでいるスマートフォン勉強会も人と人を繋げる・繋がる活動のひとつ。色々なスキルを持つた地域の協力者が一体となって楽しみながら教えてくれる。今では参加者同士のラインでの情報交換のつながりも生まれている。これからも【みんなで支え合い広場】への理解が深まり、より素晴らしい街づくりが実現できることを願っている。



各々パソコンやスマートフォンを持ってズーム操作を学習中。少人数なので気軽に質問できる

* 参加費用は無料。開催日と場所は会場の都合により変更があるため、ひぐま（電話080-17939-15135）まで問い合わせて欲しい。



「お笑い」で日本を元気に



ベルギーで経済学修士号を取得したマヌー島岡さん(左)とスイス人のシラちゃん(右)
連絡先 Manabu_shimaoka@hotmail.com

日本で唯一、フランス語で夫婦漫才ができる吉本興業所属の「フランポネ」。お笑いを通じて偏見や差別、教育格差、貧困などの社会問題をソーシャル・ビジネスとして解決することを目指している。

コンビ名「フランポネ」は、フランス語を意味する「フランセ」と、日本語を意味する「ジャポネ」の組み合わせ。中原区出身のマヌー島岡さん(以下、マヌーさん)と、スイス人の妻シラちゃんとのユニットだ。

日本語学校で文法を重視する授業内容に限界を感じたシラちゃんは、マヌーさんと一緒に漫才を作ることで日本語が話せるようになつた。その実体験が活動の基になっている。

マヌーさんは学校や、障がいの授業内容に限界を感じたシラちゃんは、マヌーさんと一緒に漫才を作ることで日本語が話せるようになつた。その実体験が活動の基になっている。

「漫才は誰にでも作れます。教えるときは『楽しさ』や『わかりやすさ』を重視します。お笑いは皆が笑顔になります。日本に住むすべての人が笑顔になると、日本全体が元気になります。僕らの目標は、お笑いの力で社会と平和に貢献することです!」

「フランポネ」さんは令和5年度「地域コミュニティ活動支援事業」として、麻生区内でも「漫才作成ワークショップ」を開催予定。

漫才ができる吉本興業所属の「フランポネ」。お笑いを通じて偏見や差別、教育格差、貧困などの社会問題をソーシャル・ビジネスとして解決することを目指している。

漫才作りは、コンビ名を決めるところからスタート。自分の好みや、出身地、家族の名前などを教える過程で、お互いを知り、コミュニケーションがはかれるようになる。名前が決まれば次はツカミの挨拶を練習。そしてネタ作り。日常生活にある言い間違いや、聞き間違い、たとえば「主人」と「囚人」を聞き間違えたり、顔の「鼻(はな)」を「穴(あな)」と言つてしまつたり、ボケ役の間違えを、ツッコミ役が説明してひとくだり。

「漫才は誰にでも作れます。教えるときは『楽しさ』や『わかりやすさ』を重視します。お笑いは皆が笑顔になります。日本に住むすべての人が笑顔になると、日本全体が元気になります。僕らの目標は、お笑いの力で社会と平和に貢献することです!」

「漫才」は、身体一つででき、特別な舞台や道具を必要としない。

者施設などでも漫才教室を行っている。漫才を推す3つのポイントは「社会性」「事業性」「革新性」。身体一つででき、特別な舞台や道具を必要としない。



介護保険制度について



ケアプランで楽しい生活を送ろう

65歳以上の人で老化や疾病によって、介護が必要と認定された人が介護を受けられる制度。40歳～64歳で、筋委縮性側索硬化症、脊椎管狭窄症、関節リューマチなど16種類の特定の疾患が原因で、介護が必要な人も対象となる。

介護の種類は軽い方から要支援1、2、要介護1～5まで7段階あり、認定の目安が定められている。要支援1は家事などの支援を行えば一人で生活できる、要介護5は基本的に寝たきりでコミュニケーションもとれず、介助無しに生活できない場合。要支援2と要介護1との境目は、認知機能の低下が見られか否かと言われている。本人または家族などが申請すると、市や区の委託を受けたケアマ

アージャー(ケアマネ)が訪問し、70項目ほどの聞き取り調査をおこなう。主治医に相談し意見書を出してもらうことも必要。これらの結果に基づいた介護認定審査会で認定されると、介護の種類と支給基準額が決まる。サービスの利用にはケアマネによるケアプランが必要。その内容は、デイサービス、リハビリなどの通所介護、ホームヘルパー、リハビリ療法士や入浴介護職員などによる在宅・訪問介護、グループホーム、特別養護老人ホームなどへの入所・施設介護。本人の症状と費用負担に応じて細かく相談して決定し、症状の進展に応じて適時見直される。また、介護ベッド、車イスなど福祉用具のレンタルや手すり、バリアフリーなど住宅改修などのサービスも受けられる。

申請の窓口は、区役所高齢障害課(電話965-5198)または区内の地区ごとに7ヶ所ある地域包括支援センター。この制度を利用するには国民の権利。独りや家族で頑張りすぎないでまずは相談し、適切な支援を受けよう。

4団体が採択されました！

本事業は地域のなかで人が集い、地域に愛着を持ち、お互いの良い関係が築ける活動を支援するために麻生区で活動するボランティアや市民活動団体が地域の新たなコミュニティづくりにつながる「事業」を行えるように事業資金の一部を支援するものです。



4月14日の審査会を経て、令和5年度として4団体が採択されました。本年度は新たに3団体が選ばれ、さらに新しいコミュニティができるることを期待しています。イベントなどの開催にあたってはやまゆりホームページ掲載や、チラシなどが区内に配架されます。多くの方の参加をお待ちしております。

アートロジ麻生

アートロジ片平

片平川の遊歩道脇のコンクリート擁壁にポスター用フレームを設置し、道行く人々がアート作品を楽しめるスペースとして開放します。展示する作品は地元に関連するもの、区民から公募したもの、地元の作家のものとし、この一画が地元人々の心の交流の場となること、人々が地元の人々の営みをより深く知る機会となることを目的としています。

チーム「フランポネ」

お笑い（漫才）を学ぼう！

スイス人との国際夫婦漫才コンビ「フランポネ」が企画・実施し、子どもたちにも、コミュニケーション力向上として効果的である日本の大衆芸能である漫才を実体験して頂き、麻生区を「笑い」で元気にできればと思っています。

漫才作成ワークショップ(即興漫才作成講座と漫才教育家により漫才作成講座)を開催します。

かわさきミュージックチャレンジ

みんなでチャレンジコンサート in あさお

障がいの有無に関係なく人とのつながりを音楽を通して感じ取っていただき、より住みやすい街・ノーマライゼーションのマインドを持つ街、お互いをリスペクトできる優しい街、麻生区となり、その輪を広げたいです。

KMC(かわさきミュージックチャレンジ)合奏団を設立し、ともに楽しみながら交流を深めます。

かたひらほっとカフェ

地域コミュニティを強化するための講座・交流会 (地域団体・地域施設との連携)

同じ地域に住む子どもから高齢者、障がいを持つ方が集まり、ともに時間を共有し、楽しむことにより、顔見知りになり、いつも挨拶ができ、協力し合い、助け合い、地域の問題を解決し合える関係をつくることを目的としています。当日自由参加のお茶会に加え、パステル画教室、ボッチャ＆輪投げ大会、みんなの発表会などを開催します。

麻生市民交流館 やまゆり



ホームページ更新中 ►►►

開館日

月～金 9:30～17:00

平日の夜間 ~20:15

※土・日・祝日も予約をすれば利用可

休館日

年末年始、施設点検日

アクセス

小田急線「新百合ヶ丘」駅南口から徒歩4分

住所

〒215-0021
川崎市麻生区上麻生1-11-5

TEL

044-951-6321

